「システム農学会」年次大会一般研究発表会の講演要旨原稿作成要領

○斎藤元也（東北大院農）・秋山 侃（岐阜大流科研セ）・岡本勝男（農環研）

1. はじめに

本要領は、講演要旨集掲載原稿の書式標準化を目的とする。原稿は和文または英文、A4版縦置用紙1頁（1/2頁以上記載）とする。図表の掲載は任意とするが，使用する場合は，「4. 式と図表」に従うこと。

横書一段組、全角44字/行、47行/頁で、日本語はMS P明朝同等フォント、英数字記号はTimes New Roman同等フォントまたは日本語と同じフォント、10ポイントを基本とし、余白は上下左右25 mmとする。講演題目と著者名（所属）はMS Pゴシック同等フォントで各14、12ポイントとし、発表者の左肩に○を付ける。

2. テンプレート

本要領を収録したMS Wordファイルが利用可能で、原稿で使われるすべての書式とスタイルが含まれる。

3. セクションの分割

セクションの分割は任意とするが、使用する場合は、「1. はじめに」、「2. 方法」、「3. 結果と考察」のように、MS Pゴシックまたは同等で1から始まる連番を振る。セクション見出しは左詰めに置き、上の本文との間に1行空けるが、下に続く本文との間には空行を置かない。サブセクションは、使用しない。

4. 表記方法と単位

和文原稿は当用漢字を用い、現代かなづかいの口語体で｢である」調とする。和文原稿は必要以上の外国語使用を避ける。略称は、初出時に正式名称を記す。学名は*イタリック*とするが、var.、f.、sp.等はイタリックとしない。単位は国際単位系（SI: the International System of Units）を原則とし、重力単位の併記を認める。

5. 式と図表

式は、例のように、行の中央に書き、連番を右詰めで振り、本文中では「式(1)」のように参照する：

|  |  |
| --- | --- |
| e=mc2 | (1) |

数式エディタか通常のテキストで作成する。

図と写真は、1から始まる連番を振り、文章の後に置く（図1）。図が複数の描画オブジェクトで構成されるとき、すべてのオブジェクトを1つのオブジェクトとしてグルーピングする。図と写真の見出し文字は本文に準拠し、図・写真の下方に、図・写真と水平中央揃えで置く。注釈や説明は、すべてその下方に記載する。表も1から始まる連番を振り、文章の後に置く。見出しの文字は本文に準拠し、表の上方に、表と水平中央揃えで置く。説明は、すべて見出しの下方、表の上方に記載する。注釈[注1]は、すべて表の下方に記載する。

6. 引用文献と参照

引用文献の見出しは番号なし左詰めで、フォントは本文に準拠する。見出しの下に、空行は設けない。一覧は、本文末尾に一括して著者名のabc順に並べる。同じ筆頭著者のものは年次順、同じ筆頭著者の同一年のものは引用順に年の後にa, b, c, ...を付ける。引用する場合は、カッコ内に著者の名字と発表年で示す。著者が3名以上の場合は、「筆頭著者名ほか」（英文は”1st-author *et al*.”）で示す。文献は、下記のように記載する。すなわち、(1) 著書または編著は、著者名または編者名、年、書名、発行所名、発行都市名の順(システム農学会 1996a)、(2) 著書または編著の一部を引用する場合は、著者名、年、表題、編者名：書名、発行所名、発行都市名、開始頁-終了頁の順(Okamoto *et al*. 2003)、(3) インターネットの場合は、著者名、年、表題、ホームページ名、URL、発行者名、発行都市名の順(Mather and Aplin 2003, システム農学会 1996b)、(4) 雑誌の場合は、著者名、年、表題、雑誌名、巻、号、頁の順（岡本ほか 2003）、(5) 国際会議や国内大会、研究会論文集の場合は、著者名、年、表題、会議名（または学会論文集名）、開催地、開催期間、発行者、発行都市名、巻、号、頁の順（Okamoto *et al*. 2001）とする。掲載誌名の略記は慣例に従う。

謝辞

この文章は、The Remote Sensing and Photogrammetric Society（Mather and Aplin 2003）と、システム農学会原稿作成要領（システム農学会 2016）を参考にして作成した。

注釈

[注1] 表中の注釈は小文字の[a], [b], ...を用いて注釈が必要な場所に示し、表の下方に箇条書きで記す。

引用文献

Mather, P.M. and Aplin, P., 2003, Instructions to authors of papers to be published in the proceedings of the annual meeting of RSPSoc 2003. In *http://www.geog.nottingham.ac.uk/~rspsoc03/RSPSoc-2003- Author-Instructions.html*, The Remote Sensing and Photogrammetric Society, Nottingham.

Okamoto, K., Yokozawa, M. and Kawashima, H., 2001, Evaluation of changes in climatic indices using combined analysis of remote sensing and GIS. In *Info-tech & Info-net: A Key to Better Life, edited by Y. X. Zhong, S. Cui and Y. Wang, held in Beijing, China, on 29 October - 1 November 2001*, IEEE and People’s Posts & Telecommunications Publishing House, Beijing, pp. 133–138.

図1　農業－生態系－環境の概念。地上～衛星観測データまで、高速データ通信システムと地理情報システムを用い、点～地域～大陸規模でデータのスケール・アップ/ダウン、相互のシステム分析が可能となる。

Okamoto, K., Shindo, J. and Kawashima, H., 2003, Sustainable rice cropping and water resources in Asia. In *Advances in Ecological Sciences 19: Ecosystems and Sustainable Development IV, edited by E. Tiezzi, C. A. Brebbia and J-L. Usó*, WIT Press, Southampton, Vol. 2, pp. 1057–1065.

岡本勝男, 横沢正幸, 川島博之, 2003, 衛星リモート・センシングを用いた災害の検出と評価. システム農学, Vol. 19, No. 1, pp. 61–79.

システム農学会編, 1996, 新たな時代の食料生産システム－低投入・持続可能な農業に向けて－, 農林統計協会, 東京.

システム農学会編, 2016, 原稿作成要領. 投稿論文について, In *https://jassnet.org/journal/protocol.html*, システム農学会, 京都.

表1　原稿執筆要領に関する事例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 作成者（作成年） | 学会名 | 対象領域 |
| システム農学会 (1996b) | システム農学会[a] | 農、林、水産、畜産業と生態系および環境の境界領域 |
| Mather and Aplin (2003) | RSPSoc [b] | リモート・センシング一般と写真測量 |

[a]英名は、The Japanese Agricultural Systems Society

[b] RSPSoc: The Remote Sensing and Photogrammetry Society